

令和6年度 第2回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立出来島支援学校
校長名	武田 幸造

開催日時	令和6年7月10日(水) 10:00~12:05
開催場所	府立出来島支援学校 4階 会議室
出席者(委員)	重田会長(大阪府教育庁教職員室)
	藤木委員(出来島地域活動協議会)、島田委員(西淀川発達支援センターたんぽぽ)
	西井委員(株式会社あしすと阪急阪神)、石川委員(PTA 会長)
出席者(学校)	武田校長、小野教頭、樋口教頭、木崎事務長
	花谷首席、上戸首席、和田首席
傍聴者	保護者1名
協議資料	令和6年度 学校経営計画
	学校運営協議会実施要項及び学校運営協議会傍聴に関する要領
	令和6年度 使用教科用図書(選定・採択)一覧表
議題等(次第順)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校長あいさつ</li> <li>2. 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介</li> <li>3. 「学校運営協議会実施要項」及び「学校運営協議会傍聴に関する要領」確認</li> <li>4. 本協議会の会長及び副会長の選出</li> <li>5. 令和6年度 学校経営計画及び学校評価について</li> <li>6. 令和6年度 使用教科用図書について</li> <li>7. その他</li> </ol>	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>4. 事務局より会長に大阪府教育庁教職員室重田氏を推薦。全員一致で承認される。</p> <p>副会長には大阪成蹊大学瀧本氏を推薦。本日校務により欠席のため、事務局からあらためて就任を依頼する旨で決定。後日、事務局から瀧本氏に打診。瀧本氏から快諾を得て、委員の方に周知および承認いただく。</p> <p>5. 令和6年度 学校経営計画について</p> <p>学校経営計画及び学校評価の策定までのながれと今年度の重点目標の具体的方策についての説明(校長)</p> <p>・「で・き・じ・ま」の4文字を頭文字とする4つの標語に 12 の項目を意味付け、小学部、中学部、高等部と進む中で系統的に力をつけていけるよう、すべての教育活動に取り組む。(めざす学校像)</p>	

・中期的目標および到達目標、評価指標の概要説明。

・学校教育自己診断の結果と分析等の概要説明。

①最適な学習活動が展開できるシステムの構築と教員の授業力向上

・学習指導要領に準拠し児童生徒の課題に考慮したシラバスの運用と妥当性を検証する。

・授業力、指導力向上に向けての研究授業・研究討議の実践に努める。

②社会につながることに希望を抱き、主体的に夢を実現できる力の育成

・キャリア教育の推進と異年齢集団での合同授業の展開に取り組む。

・「掃除・清掃」をはじめとした小学部から系統的に取り組める学習体制の構築に努める。

・中学部からの現場実習の充実を図る。

③近隣学校園や地域等と連携した開かれた学校づくり

・開かれた学校づくりと授業を地域に公開する機会を設定し、実践する。

・学校間交流の実施と地域のセンター的機能としての積極的に地域支援等に取り組む。

④安全安心に学べる学校の体制整備 自分自身、仲間を大切にできる人権感覚の育成

・シラバスを基にした防災学習の充実と防災学習の一環とした宿泊学習に取り組む。

・過去の事案をもとにした人権研修を行い、教職員の人権意識を高める。

⑤校務の効率化による働き方改革の推進

・週に一度の一斉退勤日や Google フォームによる保護者からの欠席連絡、会議等での ICT機器活用等による働き方改革の推進を図る。

・効率よく業務に取り組むとともに、業務の平準化、スクラップ&ビルドの観点に則った学校経営の推進に努める。

○質問及び意見等

委員)

・校長説明の中で「青シラバス」の話があったが、この「青」の意味を聞きたい。

首席)

・開校準備室当時に各教科作成したものが「青シラバス」と出来島支援学校内で周知・共通理解できている。

開校後、児童生徒の実態等に合わせ実際に運用していくうえでより教育効果が見込まれ、先生方自身でアレンジしていくシラバスを「白シラバス」とし、今後の教科等の指導にあたっていく。

委員)

・出来島地域活動協議会(以下、地活協)の委員長として、地域と学校のパイプ役になればと思っている。防災関係もぜひ協力したい。その際、地活協の防災担当を通じて協力依頼をお願いしたい。

・通学路において、毎月第1週および重点的な場所はほぼ毎日、登下校の見守りを行っているので、出来島支援学校の通学に関しても何かあれば協力する。

委員)

・学習面では個人差が大きいと思う。クラスでの学習指導体制や内容はどのように取り組んでいるのか。

校長)

・小学部は学年を超えての指導に取り組んでいる。低(1・2年)、中(3・4年)、高(5・6年)のグルーピングでの活動。異年齢の子どもたちと一緒に学ぶ環境でもある(学年間交流的の意味合いも兼ねている)。

・中学部・高等部は、学年内で課題に合わせた学習班づくりを行っている。

委員)

・中学部の早い時期から就業体験のような取り組みを行うことは良い活動であると思う。

委員)

・保護者の意識なども就職に関係する。早い時期からお子さんとしっかり話をし協力していただければ十分就労も可能であると思う。そういう視点からも、出来島支援学校では中学生という早い段階からこういう取り組みを行っていることは非常に良いことである。

委員)

・三日間の実習日誌を読ませていただいて、実習内容がよく分かった。子どもが帰ってきてから「玉ねぎの皮をむいた。」「手が臭くなった。」などと話してくれて、聞いていて楽しかった。学校の様子がよく分かる実習だった。

委員)

・出来島では、地域を巻き込んで行うことができる。今後も協力していただけたらと思う。以前、西淀川高校時代、近隣の企業で避難所がないところがあり、区役所を通じてその企業の避難所として西淀川高校が指定され、合同で避難訓練なども行っていた。

委員)

・学部の垣根を超えた交流をお願いしたい。さらに、保護者同士も学部・学年を超えての交流ができればと思う。保護者もいろいろな悩みを抱えているため、先輩方などに相談できる状況になればありがたい。

委員)

・今後、学校としてできないことはできない、と伝えても良いと思う。その中で、保護者や地域の協力を信じて進んでいけば良い。実態に応じて、この学校経営計画も80%と高い目標を掲げているが、現状に応じて先生方の無理のないよう取り組んでいき、先生方が最後まで笑顔で過ごせる学校であってほしい。

以上の説明及び意見交換等を行う中で、この計画が承認される。

## 6. 令和6年度 使用教科用図書について

令和6年度 使用教科用図書について資料に沿って説明(教頭)

### 次回の会議日程

日時	令和7年2月頃 (時間は未定)
会場	出来島支援学校 4階 会議室